

**京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書**

平成21年7月17日

財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長 辻 井 昭 雄 様

所属部局・研究科 アジア・アフリカ地域研究研究科

職 名・学 年 5年一貫制博士課程5年

氏 名 井 上 真 悠 子

事 業 区 分	平成20年度・長期派遣助成		
研 究 課 題 名	東アフリカにおける観光化と移動労働者の広域ネットワークに関する人類学的研		
受 入 機 関	タンザニア連合共和国、ダル・エス・サラーム大学		
渡 航 期 間	平成20年11月30日 ~ 平成21年6月15日		
成 果 の 概 要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 無 有()		
会 計 報 告	交付を受けた助成金額	1,600,000 円	
	使用した助成金額	1,600,000 円	
	返納すべき助成金額	0 円	
	助成金の使途内訳 (使用旅費の内容)	航空運賃	280,000円
		現地交通費	120,000円
		宿泊費	500,000円
滞在費		700,000円	

成果の概要 / 井上 真悠子

東アフリカにおける観光化と移動労働者の広域ネットワークに関する人類学的研究

Anthropological Study on the Developing Tourism and Social Networks of Migrant Workers in East Africa

報告者は2008年11月30日から2009年6月15日までの間、タンザニア連合共和国とケニア共和国において、観光業、特にみやげ物業に従事する移動労働者を対象に、東アフリカにおける移動労働者の移動実態、及び、観光地形成過程における移動労働者の役割を明らかにすることを目的とした現地調査をおこなった。まず2008年11月30日から2009年4月27日まではタンザニア連合共和国ザンジバルにおいて、みやげ物業に従事する人々の属性を調査するため、合計91名の移動労働者に対し、質問表(出身地、民族、家族構成、学歴、職歴、移動・移住歴など合計25項目)を用いた聞き取り調査とインタビュー形式の聞き取り調査をおこなった。そして、2009年4月28日から6月15日までは、タンザニア連合共和国ダル・エス・サラームとケニア共和国モンバサ周辺において、みやげ物業従事者の移動/移住についてインタビュー形式の聞き取り調査をおこなうとともに、みやげ用商品の製作・流通に関する聞き取り調査と参与観察をおこなった。この調査によって明らかになったことは、以下の2点である。

1、みやげ物業従事者の移動の実態

移動/移住に関する聞き取り調査から、みやげ物業に従事する移動労働者は、その多くが東アフリカの主要な観光地であるタンザニアのザンジバル、ダル・エス・サラーム、アルーシャ、ケニアのナイロビ、モンバサ(マリンディ)の五地点の間で移動していることが明らかになった。移動は、観光シーズンごとに、より稼げそうな場所を求めて移動する短期的な季節型移動のほか、観光政策の変化や政情の悪化等の理由で他の観光地へ転出する住み替え型の長期的な移動があった。

ザンジバルではみやげ物業の大部分を移動労働者が担っているのが現状であり、商品も大部分が他の観光地から流通してきた物であった。ザンジバルでは、みやげ物販売を担っているのはほとんどがタンザニア北部の出身者であり、また、みやげ物絵画を描く画家の多くはダル・エス・サラーム近郊もしくはタンザニア南部の出身者と、職種によってある程度の地域的なまとまりが見られた。一方、みやげ物業にたずさわる移動労働者は若い独身男性が大半を占めており、彼らは友人や親類を頼ってザンジバルや他の観光地へと移動しているが、頼る知人等は必ずしも同民族や同郷とは限らず、また観光業を営んでいるとも限らなかった。つまり彼らは、販売業・画家業といった職種選択ではある程度の地縁・血縁的つながりを見せているが、移動に関しては同郷集団や観光業という枠を超え、むしろ個人が都市生活において開拓した人脈を最大限に活用しながら移動していることが明らか

になった。

2、東アフリカの観光開発と労働移動との関係

ザンジバルの東部に位置する比較的新しい観光スポットを調査したところ、以下のような観光地形成過程が示唆された。まず外国資本の高級リゾートホテルが建ち、そしてその周囲に様々な規模のアフリカ人観光業従事者が集まり、にぎわいを増すことで「観光地」として充実してくる。そして、みやげ物屋群が増え、観光地の規模がほどほどに大きくなると、ザンジバルの地元住民らによって現地労働者のための飲食施設や宿泊施設が営まれるようになる、という構図である。つまり、外国人観光客のビーチリゾートが主流である東アフリカ海岸部の観光地は、まずは消費国の資本やホスト国家の観光政策などの大きな力によって開発されるが、その観光開発に便乗する現地労働者たちの存在も、観光客に様々なサービスを提供することでその土地を「観光地」として盛り上げるために必要不可欠な存在なのである。

しかしながら、少ない資本しか持たない小規模なみやげ物業者の中には、それまでいた大きな観光地の法整備が整い、路上販売が禁止されたりみやげ物店を営業するための税金を払えなくなったことを理由に、新天地を求めて法整備の甘い小規模な観光地へ移動してきた者が多く見られた。つまり、東アフリカの観光地におけるみやげ物業者の住み替え型移動の背景には、国家の観光政策にともなう法整備が大きく関わっている可能性が高い。また、資本を持たない者はより法整備の甘い開発途中の観光地へと移動し、新しい観光地を盛り上げるアクターとなるが、新しい観光地の規模が大きくなり法整備が整えられると生き残れずまた別の観光地へと移動する、という構図は、観光政策が小規模みやげ物業者の労働移動を誘発している重要な要因の一つであることを示唆している。

以上のことから、東アフリカの観光地では、商品のみならず人的資源もケニア・タンザニア内の複数の観光地を頻繁に移動していること、そして彼らは親族や同郷者ネットワークに限らず、移動先で知り合った友人・知人などのつながりを最大限に駆使した新たな都市的ネットワークを構築して移動していることが明らかになった。そして、東アフリカにおける観光業従事者の国境・地域をまたいだ労働移動の背景には土地の観光化に伴う法整備のありかたが大きく関わっており、それはすなわち、東アフリカの観光化や労働移動といった現象が、一つの地域だけの問題ではなく、ケニア・タンザニア内の複数の観光地の中で連動している現象であることを示している。これらはさらに詳細な分析が必要であるが、その成果は現代アフリカ社会における観光開発のありかたを見直すとともに、インフォーマル・セクターに従事するアフリカ都市生活者の労働実態を明らかにしうると期待される。